



～ 鹿児島企業の顔・人・心～  
『ハイテクと伝統技術の融合』

有限会社 木原製作所  
代表取締役社長 木原 純信

鹿児島県には国の指定する伝統的工芸品として、800年に及ぶ歴史的背景の中で育まれてきた川辺仏壇があります。その装飾の要を成す錆（かざり）金具の製造を目的に、昭和32年、川辺町に於いて弊社は産声を上げました。以来、地場産業として広く地域社会に貢献し、伝統技術を継承すると同時に新しい技術との融合を図り、より良い製品の開発と品質の向上に努めてまいりました。

この間、九州一を誇る電気鋳造設備や金メッキ設備、またプレス機械やNC工作機械等の設備を導入し技術の高度化を進め、昭和54年には鹿児島工場を設立、平成2年鹿児島工場社屋を増床し、展示館を新設しました。また平成9年には金型工場を増設し、お客様のニーズに対応するべく体制を整えております。

現在、「伝統技法による手作りの金具」から「プレス加工、電鋳加工による金具」の生産まで、最終行程のメッキ処理を含む一貫生産を行える仏壇金具製造部門と、多様なNC機械を駆使して、自動車部品、電子電装部品等を生産する精密機械加工・精密プレス加工部門の2本柱で事業展開をしております。

又、伝統の技とハイテクを組み合わせ、そこに若者や女性の新しい感覚をそそぎ、現代にマッチした金属工芸品を製作する工房を立ち上げ、薩摩彫金Cuart（キュウアート：Cuは銅の元素記号）の名称・ブランドで県内外に発信しております。トピックスとして、3月開業しました九州新幹線「つばめ」のレリーフを施した新商品、カード立て付き箸置き「ウエルカムスタンド」（実用新案登録済）と、同じくデザートフォーク「みなみから」（意匠登録済）を販売しております。「ウエルカムスタンド」は箸を置く横に切込みがあり、カード等を立て、御芳名やメッセージ、案内や紹介文などを添えて、おもてなしの思いを伝える事ができます。

さて、弊社と工業技術センターとの関わりは古く、昭和50年代初め、メッキ工場移転の問題に遡ります。当時、万之瀬川取水の話があり、水質汚濁防止と技術高度化の観点から、鹿児島市七ツ島への進出を決めました。工業技術センターには排水処理施設の設備からメッキ技術の改善や品質管理まで、今日の基礎となる事業をサポートして頂きました。それからは、品質管理や新製品開発に伴う技術指導や相談、人材育成の研修等、様々な活動でご支援頂いております。

昨今、モノづくりの海外流出が叫ばれ、地場産業のかつてない衰退が問題になりました。日本でのみ、その存在意義をなす、お仏壇についても同様で海外製完成品が大量に流入しているのが現状です。そこで、弊社では差別化を図るべく、新商品の開発や更なる品質の向上、設備の高度化に努めておりますが、一番重要なことはその生産設備を使いこなす技能や技術であり、その技能や技術を持った人材を育成することであると考えます。そして、それらの人の手とハイテクとの融合が日本のモノづくりの復活につながるのではないのでしょうか。工業技術センターにおかれましては、中小企業の「技術的拠りどころ」として、更なる情報の発信と、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。



会社社屋